

学校探検

2

引き継ぐ そば会と奈佐節

奈佐小学校

案内者 本田 光知^{みち}さん



奈佐小学校は、豊岡市奈佐地域を通る、県道辻・福田線沿いにある、全校児童86人の学校です。

この学校に通う、児童会長の本田光知さん(6年生)に、奈佐小学校のいい所や、おもしろい所を紹介してもらいました。

本田さんは、バレーボール部・ミニバスケット部に所属していて、スポーツが大好きです。また、幼稚園から続けているピアノや、2年前から始めた三味線が特技で、将来



▲奈佐小学校の全景。周囲には山あいの田園風景がひろがる。

は音楽の先生になりたい」という夢を持つ児童です。

私の学校を紹介します。学校で一番楽しい行事は、三世代交流そば会です。

このそば会は、毎年12月に行われ、学校・公民館・地域の方が一体となって、ふるさとの伝統の味を守ろうと、30年以上続けているものです。

自分たちが育てて刈り取ったそばの実を材料にして、5・6年生の児童が、奈佐地域の長寿会の方々にそばの打ち方を教わりながら打ちます。そして、私たちの父さんがそばを茹で、お母さんが手際よく盛り付けていきます。

できあがったそばは、地域の方や、お父さん、お母さんと一緒に全校児童で食べます。

昨年は、台風で被災した新田小学校と三江小学校の児童会の皆さんも参加しました。

和やかな雰囲気の中、そば

打ちを教わったお礼に、地域の方に肩たたきをしてあげたり、三味線・横笛・太鼓などで演奏する奈佐節に合わせて私たちが踊りを披露します。

奈佐節は江戸時代中期に生まれ、戦後、奈佐節保存会が発足して奈佐小学校児童を対象に指導され、私たちが引き継いでいます。

また、そば会終了後、地域の一人暮らしの高齢者を訪問して、そばをお裾分けします。



▲三味線で奈佐節を演奏する本田さん(写真右)

奈佐小学校では11月25日、近畿特別活動研究会が行われる予定で、分科会の学級活動では議題に沿って児童たちが自主的に話し合いを進めていくことになっています。

このように、地域との交流や体験活動を通じて、児童たちが自分で考えて行動している取り組みを行っています。

笑顔の輪

轟の太鼓踊り

「蓮華寺古代太鼓踊保存会」 会長 井垣 登さん

竹野町轟地区の「蓮華寺古代太鼓踊保存会」は、現代に太鼓踊りを再現させようと平成4年に発足しました。現在は会員数16人です。

太鼓の打ち方、唄い方など資料が残っていない中、保存会会長の井垣登さんが中心となって、幼少の頃に太鼓踊りの経験をした方の記憶を頼りにして再現しました。

轟の太鼓踊りは、県指定文化財に指定されていて、その成立や由来については不明ですが、遅くとも19世紀初めには踊られていたと考えられています。

衣装は浴衣にしごきの帯が基本で、踊り手は踊りやすいように浴衣を短めに端折り、頭には花笠をかぶり、直径約30センチの締太鼓を2本の竹で挟み、紐で腰に固定します。

全11曲ある古代太鼓踊唄を唄い手がゆつたりとした念仏調で唄いあげ、踊り手が唄に合わせて太鼓を叩きながら踊ります。



▲衣装を着て、太鼓踊りをする保存会の皆さん

時を経て踊り方や表現方法・衣装などにより手が加えられず、太鼓踊り発祥時の原形に近いといわれています。太鼓踊りは、毎年8月14日に蓮華寺の本堂で行われる盆行事の一つ施餓鬼供養と、10月末の蓮華寺紅葉祭りで披露されます。6月と7月にかけて毎週練習が行われます。井垣さんは、太鼓踊りの再現は大変でした。今後は途絶えないように、メンバー一丸となって活動していきます」と力強く話していました。